

葬祭について学ぶ

～女性営農生活講座葬祭なんでも教室～

7月24日、「葬祭なんでも教室」を本店で開き、組合員約30人が参加した。

組合員に「JAの葬祭について知っていただくことと、葬祭に関する悩みや質問を解決することを目的としている。JA葬祭センター弘前の職員が講師を務め、参加者は終活ノートの書き方と残すことの大切さ、仏壇の花瓶に飾る仏花などについて学んだ。

参加者は「就活ノートの書き方や仏花の作り方など、とても勉強になった。これからはきれいにお花を飾ることができる」と話した。



仏花を作成する参加者

初検査で品質を確認

～小麦程度統一会～

7月16日、北米穀センター格納庫で小麦の初検査と農産物検査員育成研修生2人の現場実習を兼ねた程度統一会を開き、小麦の品質の程度を確認し、42トンの小麦「ゆきちから」を検査した。

容積重・形質・水分などを検査。形質では、小麦を一粒ずつ確認し、充実具合などを見極めて、等級を判断した。検査員が統一した等級になるよう全員で確認した。

当JAでは、52人が農産物検査員として登録されている。検査員が小麦・米・大豆の形質などを検査し、等級を付けてから出荷する。



指導を受けながら検査する新人検査員

夏秋トマトの適正管理方法を確認

～黒石地区トマト栽培講習会～

黒石基幹グリーンセンターは7月31日、黒石トマト部会の宇野誠部会長のハウスで夏秋トマトの栽培講習会を開き、生産者ら約30人が参加した。

同グリーンセンターの工藤大和営農指導員が講師を務め、今後の栽培管理などを説明。工藤営農指導員は栽培管理について「トマトトン処理は、7月から8月末までは130～150倍で希釈し、空洞果防止のためジベレリンを加える」と指導した。

工藤営農指導員の説明後、生産者らは宇野部会長のハウス内でトマトの生育を確認した。



トマトの生育を確認する生産者

出荷箱数前年上回り300万箱超

～平成30年度りんご精算報告会～

7月30日、各青果センターの平成30年産りんご精算報告会が開かれ、販売経過や精算、市場情勢などを報告した。

平成30年産りんごの集荷数量は黒星病や日焼けなどに加えて、台風21号などによる落果、樹上損傷被害などから減収が見込まれたが、ふじの生産内容が大玉傾向であったことなどから、JA全体では前年を30万箱上回る326万2000箱であった。

例年以上に下位等級の発生割合が多く厳しい販売環境のなかで、取引市場の皆様の企画提案・宣伝励行などのご尽力により、JA全体の販売高は145億2000万円となった。



平賀青果センターの精算報告会